

たけのこ

2011
SEPTEMBER

9

第15号



医療法人 久盛会

秋田緑ヶ丘病院



〒011-0911 秋田市飯島字堀川 84 番地 TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-6942
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



理念

友情を図り、「生きる喜び」と「希望」を育み、
「安全・安心・信頼の医療」を実現します。

指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるよう自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます
6. 精神障がいに対する偏見や誤解の解消に努めます



釜石市熾石町付近を歩くメンバー。

左：鈴木稔医師、右前：木内克明看護師、右奥：平野雅貴 精神保健福祉士。

災害医療支援活動のご報告



医局

鈴木 稔

この度の東日本大震災において亡くなられた方々にお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

秋田緑ヶ丘病院では、第1回目として4月に、岩手県釜石市へ、「秋田県災害医療救護チーム」として派遣活動に参加しました。さらに第2回目として5月に、岩手県山田町へ、「秋田県こころのケアチーム」として派遣活動に参加いたしました。

どちらのケースも、秋田県内から派遣される各病院チームが、同一被災地をリレー方式で担当し、各避難所への巡回診療を中心として継続支援いたしました。

当院からは、4月の釜石市では、医師、看護師、精神保健福祉士、事務員の計4名のメンバー構成で、4日間活動しました。5月の山田町では、医師1、看護師2、精神保健福祉士1、事務員1の計5名のメンバーで、4日間活動しました。

わたくし自身は、2度にわたる被災地派遣のチームリーダーとして支援活動に従事させていただきましたが、留守中は、患者様、ご家族の皆様、職員の皆さんにはいろいろのご不便とご難儀をおかけいたしました。

被災地の様子は、秋田県にいたるとなかなか想像が付きにくいのですが、報道されているよりもかなり過酷な環境です。震災直後数日間は一食の配給がなかったとあったと被災者の方々から伺いました。震災後1〜2ヶ月経過してもいまだ数多くの方々が避難所生活を余儀なくされており、断水や停電が続いていたり、配給生活が続いていました。また震災後1ヶ月経過しても水が出ないので、トイレが流せなかったり、入浴できない方も多数おられました。さらに自宅や車が流されてしまった方も多く、職も失い、なかには多数のご親族を一度に亡くされた方、家族がバラバラに避難されておられる方、大津波に巻き込まれながら一命を取り止めた方もおられ、長引く避難生活による疲労も色濃く、不眠や高血圧、精神的なダメージが生じておられる方も少なくありませんでした。

また今回の震災では、被災地から秋田県へと避難されて来て、当院外来を受診

された方や、当院へ入院された方も何名いらっしゃいました。

3・11から早や5ヶ月が経過しましたが、今回はあまりにも被害が広域かつ甚大であるため、避難所は徐々に閉鎖されてきているとは言え、仮設住宅や戸別への訪問、あるいは近く現地に設立されるであろう「こころのケアセンター」などを通して、「こころのケア」の分野では、外部支援は今後も長期間を要するであろうと想像されます。

同じ東北地方でありながら、幸い秋田県は被害が一番小さかったわけですが、一人一人にできることは限られるかとは思いますが、小さな積み重ねが大きな力となり、被災地の皆さんの力や勇気につながることを思います。医療にかぎらずさまざまな分野で、ぜひ秋田県の皆様には、日本海側から太平洋側を支えてあげていただきたいと思っています。

隣県で起こった大災害は決して他人事ではありません。また今後いつ、秋田県も被災地にならないとも限りません。

今回当院職員を代表して派遣されたメンバーは皆、不慣れで劣悪な環境のなか、限られた医療資源と物資、そして長時間にわたる活動と疲労の中、それぞれの個性を生かし、持てる力を存分に発揮してくれたと思っています。

今回の活動を通して、まことに微力ではありますが、多少は被災者の方々のお力になったのでは？と思っております。

最後に、派遣されたメンバーを代表して、今回の貴重な経験をぜひ、病院での臨床、今後の災害医療支援活動、そして秋田県の災害医療対策にも生かしてまいりたいと考えております。

秋田緑ヶ丘病院
災害医療派遣の記録



体育館内に設けた診療所で被災者の診察をする鈴木稔医師。



体育館に避難している被災者の様子。

派遣先：岩手県釜石市

期 間：平成23年4月12日～15日

震災から1か月経過したが、ライフラインである電気・水道・ガスが復旧していない地域がほとんどでした。嬉石、松原地区などを担当しました。



避難所から僅かの距離にある津波の被害に遭った家屋。

派遣先：岩手県山田町

期 間：平成23年5月9日～12日

山田町は地震、津波、火事という甚大な被害を受け、心のケアが必要とされる地域でした。町役場がある山田地区などを担当しました。



山田町役場近くの様子。被害が甚大であったことが伺える。



▲ボランティアによる「そば」の炊き出しを求めて集まる被災者の方たち。



◀巡回先の小学校に到着したメンバー。



医療支援に訪れているチームが行政と合同で打ち合わせをする様子。

ワレーこらむ

「日にち薬」

自分の子供や孫が自分よりも早く死ぬことを「逆縁」と言いますが、最近自分の親族で、そのケースが続いている。釈迦の言った愛別離苦の中にも、逆縁くらい切ない、辛いものはないと思う。世の中にはそうした人はいっぱいいるのではないかと。自分だけが不幸なのではない。どんな苦しみや悲しみも、決していつまでも続きません。いつか、必ず終わりがくると思う。この苦しみが一生涯続くように思っても、絶対に続かない。物事はすべて移り変わっていく。これを「無常」という。「常」が「無い」と言います。「常」が「無い」というのが「無常」。同じ状態は続かないということです。これは仏教の根本思想です。花が咲けば実がなる。そして、その実が土に落ちて芽がでる。その苗木がやがて大きな樹になって、また花を咲かせる。このように、世の中はたえず移り変わっています。どんな厳しい冬でもやがて春が来るように、どんなに暗い夜でもやがて朝がくるように。悲しみや苦しみに終りがあります。だから私たちは生きていけるのだと思う。京都には「日にち薬」という言い方があります。どんな苦しみもやがて時間が忘れさせて、癒してくれます。それを京都では「日にち薬」と言います。愛別離苦の悲しみ、辛さを癒してくれるのは、月日という時間の薬だけということ。人間が「忘れる」という能力をささずかっているのは、とても有り難いことだと思ふ。どんな大切なことも人間は忘却という能力で忘れてしまいます。自分は「忘れた」という能力は、仏からいただいた恩寵であると同時に劫罰だと思ふ。



薬剤科 科長
笹尾 徹朗

高齢者複合施設

秋田高城体験記

東京町田、

秋田高城出向を終えて

東1病棟 看護師 林崎 重之



私は、昨年の10月15日から今年の2月いっぱいまで、東京町田にある久盛会秋田高城へ、看護師として出向して

きました。私が赴いた町田市は東京の西にあり、神奈川県との県境に位置し、数百メートルも南へ向かうと神奈川の相模原市が広がっていました。思っていたよりも緑が多く、市を貫く町田街道には多くの木々が鮮やかに植えられていました。秋田高城は町田市の西南に位置し、木曽町という静かな住宅街の一角にあり、周りにはポツポツと畑が広がっていて、非常に落ち着いた雰囲気の中にありました。こうして、のどかな環境の下、私の町田での生活がスタートしました。秋田高城は、認知症の方のグループホーム、小規模多機能ホームを事業として展開しており、認知症の看護の経験が少ない私にとって、看護のスキルアップのために、また、病院ではなく福祉施設の中での看護師の役割、動きとはどういったものなのかを学ぶために、期待をもって高城に赴任しました。

私が配属となつたのは、小規模多機能ホームで、ここは通い、泊まり、訪問の3種類の事業を中心として、24時間対応型の、非常に充実したサービスを提供している所でした。毎日、10名前後の通いの利用者が来られ、健康状態をチェックし、持参薬をカートにセットし、服薬の介助と確認が主な業務でしたが、そのほかにも、他のワーカーさん達と共に、配茶や配膳、レクリエーションを行ったり、自宅への送迎も手伝ったりしました。その中で、昼食前の体操の時間では、病院でも実施されている嚥下体操を小規模ホームでも行い、これは利用者様からも好評の言葉をも

いただきました。レクリエーションの時間では、オセロゲームやトランプ、百人一首を一緒にになって楽しみ、また、編み物や折り紙が得意な方から作り方を教わり、作成したりもしました。小規模ホームは、また要介護度が低い方が多く、認知の症状も初期の段階で、比較的会話もスムーズにとることができました。特に秋田の祭りや食べ物のお話になると、非常に興味深そうに聞いておられました。このように、レクリエーション活動は、とても和やかな雰囲気でき、たくさん会話し、一緒にやって楽しむことができました。その中で気付いたことは、何か好きな事をやっている時や、笑顔で話している時は、利用者様一人一人がとても輝いて見え、今ある機能を維持してその人らしさを出すことの素晴らしさを感じ、同時に、看護師もワーカースタッフの一員として、ケアをし、サポートすることの大切さを学びました。また、家族との連絡調整では、ケアマネジャーと連携を取り、受診時には、施設での様子や状態を提供し、薬物調整の際の助言も業務として行うことがありましたが、多種多様なご家族が多く、全く関わりをもちたくない方や、非常に熱心で病気に對する知識も豊富な方など、秋田とは違い、感情をストレートに表現し厳しい目で見ていくという印象を受けました。また逆に言うと、東京では秋田よりも看護師に対する信頼や期待度が大きく、より専門的な知識をもったプロとして当然のように成り立っていることを感じ、自分も精神科のプロの看護師として、マンパワーをさらに充実させていかなければならないと感じました。こうして、高城の温かいスタッフにも助けられ、1日があつたという間に過ぎ、充実した日々を送ることができました。施設の中は秋田のイメージを持たせたものが、ふんだんに使われ、床や一部の壁などは木作りで、ホール前には、秋田の民芸品が飾られていて、故郷を離れて初めて仕事をする私にとって、とても温かく、励みになるものでした。また、行事祭も多く参加させていただきました。11月の秋田・高城祭では、初めての開催ではありましたが、他のスタッフと共に運営に汗を流し、予想以上の来場者があり、成功をおさめることができました。12月のクリスマス会、また、年末のもちつきは、10周年ふりにもちをつくことができ、いい思い出になりました。理事長に食事をごちそうになったのも、感謝、感激でした。特

に、ほぼ毎週のようにごちそうになった、あさりラーメンは、スープがおいしく、麺も少し硬めで歯ごたえがあり、とても美味いものでした。また、六本木のステーキハウスでもいただいた牛肉は、口の中で溶けてしまうほど柔らかくて、生まれて初めてこのような美味しい牛肉を頂きました。銀座の寿司店では、ネタがすべて柔らかく新鮮で、これも口の中のとけてしまうほどの美味しさで、秋田では食べることはできない超一流の味を堪能することができ、本当にありがたかったです。また、プライベートの方では、理事長がおっしゃっていた、秋田との文化の違いを経験することを実践し、休日には積極的に都内に足を運びました。特に都内の名所として、上野公園、浅草、建設中の東京スカイツリー、年末年始には、明治神宮、靖国神社に参拝に出かけました。東京以外では、横浜、栃木の日光東照宮、伊豆、小田原、鎌倉などにも足を運びました。個人旅行で何回か東京にきていたこともあり、都内の電車や地下鉄はスムーズに行き来できましたが、昼夜を問わず、駅構内の人の多さには驚かされました。また電車に乗って、建物の規模の大きさと、延々と続く商業ビル施設と住宅街には、目を見張らされました。日本の政治と経済の中核である東京と、農業を中心とした秋田との違いと、その役割の違いを学びました。

あつという間に過ぎた4か月半でしたが、福祉施設の中での看護師の役割、小規模多機能施設での経験、そして利用者様の満面の笑みと輝きは、いつまでも忘れることはありません。

この大きな経験を、臨床の場で活かし、また自分自身のスキルを向上させることが、秋田高城への恩返しにもなると思います。今回出向に出してくださった、難波看護部長、病棟の石川師長には本当に感謝しております。また、快く受け入れてくださった高城のスッタッフのみなさん、食事つくりに入浴に、送迎に、レクリエーションに、共に励まし働いた小規模のスッタッフのみなさんにも感謝いたします。また、機会があればよろしく願います。今回の出向を機に、久盛会でのさらなる飛躍と活躍を胸に誓い、また病棟勤務に励んでいきたいと思っております。本当にありがとうございます。

部署紹介

医事課のご紹介

事務次長兼医事課長 桜庭 光明

医事課とはあまり聞き慣れない言葉ですが、医事課は、病院における医療事務をはじめ、さまざまなサービスを提供しています。業務内容は、受付・会業務・診療に関する総合案内・保者への請求業務



管理業務等、その業務は多岐にわたり、

一般的に病院の顔と言われる私たちは、病気で不安な思いを抱えて来院されてくる患者さんへ笑顔で優しくさと思いやりを持った細やかな心配りができるよう日々努力しております。

又、少しでも早く診察ができるよう初診時の保険証の確認、問診票による初期症状のチェックなど迅速に行なうことも心がけております。

請求業務にあつては、変化する医療制度を正しく理解し、知識の向上をはかり、患者さんが少しでも治療費を軽減できる方法や情報を提供しています。

医事課職員6名が患者さんのことを一番に考え、患者さんに喜んでいただけるよう力を合わせて努力しております。何かご相談、ご要望等ございましたら、遠慮なくお声がけ下さい。

医事課の新人です!



山本奈穂子

初めまして。昨年の12月から
受付を担当しています。

社会経験は初めてで、学生時代に医療事務の勉強をしていたので、少しは知識があったつもりでしたが、実際のカルテを目にした時、レセプトチェックとは全然違う事に驚きました。今までの知識だけでは、更に向上心をもって勉強していかなければならないと実感しました。

全くの初めででしたので、最初は戸惑う事ばかりでした。特に受付にいらつしやるお客様への応対や、電話応対はそんな右も左も分からない私に、優しく丁寧に指導してくださっている先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。

勤務をする上で難しいことが沢山ありますが、患者さんとお話することで励まされることも沢山あり、とてもやりがいを感じています。

受付は病院の顔になりますので、笑顔を忘れず、明るい対応を心がけていきたいと思えます。これからもご指導よろしく願います。

外来診療のご案内

心療内科・精神科・内科・麻酔科

◆初診の場合

〈受付時間〉 午前 8:45～11:30まで

〈受付窓口〉 受付・総合案内へ

〈診療時間〉 平日（土曜日は午前中のみ）

9:00～12:00 / 14:00～17:00

但し、救急の場合はその限りではありません。

（午後には予約制による診察を行っています。）

※内科は土曜日休診、麻酔科は平日午後・土曜日休診。

〈必要なもの〉 保険証

※受給証をお持ちの方は併せて受給者証を提示してください。

◆2回目以降受診（再診）の場合は

〈受付窓口〉 外来・再診受付へ

〈必要なもの〉 診察券と予約券

◆専門外来について

「うつ・ストレス外来」「女性専門外来」「思春期外来」「もの忘れ外来」「睡眠障害外来」「てんかん外来」「PTSD外来」「頭痛外来」こちらの外来診療については完全予約制となりますので受付までお電話下さい。

毎月1回は保険証の確認をさせていただきますのでご提示願います。

クレジットカードでの支払いが可能です



6月7日に

みどりンピックが開催されました （旧運動祭）

午前には晴天の下、グランドゴルフ場で3つの競技が行われました。椅子に付いている風船を割る「風船割り借り物競争」では、風船が思うように割れず、勢い良く椅子に何度も座り直す姿が会場の笑いを誘っていました。また、今年は各部署の主任や部長、病棟の師長が参加する職員リレーが企画されました。リレーコースの中には様々な障害物が準備されており、特にバッドで回転してから走るコースでは、真っ直ぐに走れずフラフラになりながらも全力疾走する職員の姿に、患者さんや職員から大きな声援と笑いが上がりました。

午後からはホールで風船バレー大会が行われ、会場には各病棟の応援が響き、賑やかな雰囲気の中で白熱した試合が繰り広げられました。

晴天の下、患者さんも職員も思い切り身体を動かしていい汗をかき、とても有意義な時間となりました。



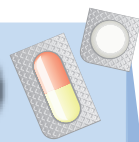
◀ 司会のお二人



編集
後記

震災後、省エネへの意識が高まりました。せっかくですから引き続き省エネしましょう。

薬局だより



薬剤師 鈴木 昭雄

～自分にあった薬を選ぶために～

薬は症状を和らげ、病気のつらさを軽減するものです。また、症状が落ち着いた後、再び悪化しないようにしてくれますので、飲み続けることが重要です。長く飲み続けるには、『その薬がよく効いていること』、『副作用が少ないこと』、『自分のライフスタイルに合った飲み方、飲みやすい形状であること』が大切になってきます。

副作用の中にはとても不快なものやつらいものがあります。我慢をしていると薬を飲むことが嫌になってくるものです。

また、1日に薬を飲む回数が多い、飲み方が煩雑でわかりづらい場合、薬を飲み忘れることが多くなり薬の効果が不十分になることがありますので、いつ飲み忘れることが多いか、どの様にしたら飲み忘れることが少なくなるかを考えることが大切になります。薬の種類によって1日に飲む回数も違いますし、様々な形状（錠剤、口腔内崩壊錠、散剤、液剤、注射剤etc.）のものがあります。

薬と長く付き合っていけるよう、疑問や不満がありましたらいつでもご相談ください。

第11回 ふれあい看護体験



日本精神科看護技術協会主催「第11回ふれあい看護体験」が当院で開催されました。当日の参加者は9名で秋田市内の高校生の皆さんです。

食事介助体験や作業療法に参加したり、クローバー就労継続支援事業所の作業風景や指定相談支援事業所も見学し、精神科医療と地域支援についても知識を深めてもらえたようです。

参加者からは「精神科についてのイメージが変わりました。病院内のアットホームさや、看護師さんたちの細かい心づかい、患者さんの笑顔など、話を聞くだけでは分からないことを体験することが出来ました。絶対に看護師になります！」などの感想が聞かれ、主催者側も参加者から元気をもらった、充実した一日となりました。

